

平成 30 年度 大田区区民協働推進会議（第 7 回）

日時：平成 31 年 3 月 25 日（月）

場所：本庁舎 6 階 602 会議室

【議題】

- 1 平成 29・30 年度大田区区民協働推進会議活動報告について
- 2 その他

【出席者】

委員：中島・牛山・川口・平澤・茂野・柳谷・櫻井・長沼

事務局：地域力推進部長、区民協働担当課長・地域力連携協働支援員・区民協働担当 2 名

【会議録】

	《開会》
事務局	委員 11 名のうち 7 名の方にご出席していただいています。過半数に達していますので、大田区区民協働推進会議設置要綱第 6 条に基づき、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。
会長	《会長あいさつ》
会長	部長から挨拶をお願いします。
部長	《部長あいさつ》
会長	会議を始めさせていただきます。 平成 29・30 年度大田区区民協働推進会議活動報告について、事務局から説明をお願いします。
事務局	平成 29・30 年度大田区区民協働推進会議活動報告については、第 6 回会議において、地域力応援基金助成事業、おやじの会の実態調査のそれぞれに資料をまとめてお示しし、確認していただきました。今回は、第 6 回でいただいた意見も踏まえ、報告書の形でお示ししています。 活動報告は、冒頭に会長あいさつを掲載します。内容については、後日会長と事務局で内容をまとめる予定です。 次に、「大田区民協働推進会議と調査研究テーマについて」とし、会議の設置目的及び平成 29・30 年度調査・研究テーマの概要とテーマ設定理由についてまとめています。 次に、一つ目の調査・研究テーマである「地域力応援基金助成事業の見直し」を掲載しています。ここでは、過去の地域力応援基金助成事業の実施団体に向けて行ったアンケートの調査結果や、本会議における議論の内容、本会議の提言をまとめています。提言 1～6 は、平成 30 年 8 月 24 日に、会長から区長に提言した内容です。提言 7 以降は、その後の本会議での議論の内容を、提言としてまとめています。本テーマの最後には、付録として平成 30 年 8 月 24 日の提言書を原文のまま載せています。 次に、二つ目の調査・研究テーマである「大田区立小・中学校おやじの会実態調査」を掲載しています。活動報告では、2 年に及ぶ調査の概要をまとめています。すでに発行している「大田区立小・中学校おやじの会実態調査結果報告」及び「大田区立小・中学校おやじの会活動事例集」は、活動報告の別冊として配布する予定です。 以降は、平成 29・30 年度の本会議の会議の議題、本会議の委員名簿を掲載し、巻末には大田区の地域区分を掲載しています。 活動報告は、これまでの議論をまとめたものですが、再度ご覧いただき、修正や誤字・

	<p>脱字等お気づきの点があれば、事務局までご連絡いただければと思います。 活動報告ができあがった後、会長から区長に直接お渡しいただく予定です。その後、地域力推進会議での報告を皮切りに、各地域力推進地区委員会において報告する予定です。</p>
会長	<p>高齢化社会を迎えるにあたり、地域における連携・協働は不可欠です。地域の方々に知ってもらうために、活動報告を広く配布していきたいと思っています。また、新しい制度の地域力応援基金助成事業も、有効に活用していただきたいです。おやじの会については、実態調査及び事例調査で実態が明らかになりました。おやじの会の数や活動は、地域によって偏りがあるようですが、今後の活動に期待したいと思います。</p>
支援員	<p>おやじの会は、大森地域の小・中学校に会がある割合が多く、祭礼などで地域との連携・協働が生まれている事例が明らかになりました。大森地域では、小学校のおやじの会の連合組織ができており、現役世代・子育て世代が地域にかかわることの大事さを、現役世代が認識していると考えられます。</p>
会長	<p>町会の防災訓練にも言えることですが、単会で取り組むことと、他団体と連携して取り組むことは、勝手が違います。不安や不満が出ることもあります。連携・協働を意識して取り組むことが大切ではないでしょうか。将来的に、自治会・町会の統合があるかもしれません。その時にも多くの苦労があると思いますが、どのように乗り越えていくかが課題です。</p>
川口委員	<p>青少対では、おやじの会をはじめ、様々な団体と協力して活動していますが、頻繁に話し合いの場をもっています。年齢の差もありますので、コミュニケーションを密に取ることを意識しています。おやじの会の活動を見ていると、単体で活動している会は、次世代がつながりにくくなっている印象を受けます。かわいい子どもたちのためにつなごうという意識があるといいのではないのでしょうか。</p>
平澤委員	<p>地域が目標を見出し、それに向かって集中するようなことがあればよいと思います。さらに、それをけん引する人物がいるとよいのではないのでしょうか。目的や目標がないと、人を集めることは難しいと感じますし、献身的な人を見つけるのが難しいのが現状だと感じています。みんなで街をよくすることへの協力の意思をどう引き出すかが難しいと思います。商店街でも、理事の成り手がいないのが課題です。</p>
茂野委員	<p>私は、18 特別出張所が現実的な「地域」の単位だと思います。各地域に、資源を配置しないと連携・協働は進まないのではないのでしょうか。特に自治会・町会が担っている役割において、資源が不十分だと感じています。特別出張所ごとにコーディネーターを配置することで、地域が持っていない情報などを補うことができるのではないかと考えます。それができると、NPOや区民活動団体もそこに向かって支援できるようになります。NPOや区民活動団体は、地域に特化した活動は得意ではないと思います。地域にブロックがあり、コーディネーターがいれば、そこに向かって支援ができると思います。</p>
会長	<p>区民協働の事業や取組みが周知できていないのが現状です。特別出張所にコーディネーターを設置し、連携・協働について助言できるといいかもしれません。</p>
長沼委員	<p>活動報告について、これまでデータがなかったおやじの会の実態が明らかになったことで、今後のおやじの会の発展のきっかけになるのではないかと期待しています。現在のおやじの会の活動は、学校行事との連携・協力がメインですが、今後地域とのつながりが多くなっていけばよいと思います。 世の中が非常に忙しく、地域の方は地域活動に力を入れられないという現状があるのではないかと思います。地域の中で、連携・協働を図り、充実させていくようなことがで</p>

柳谷委員	<p>きるとよいと思います。 また、特別出張所の職員は、日々の業務の中で地域の方々とのネットワークが生まれています。団体同士でネットワークを築くのは難しくても、職員がコーディネートすることで、連携・協働が進むのではないかと思います。</p> <p>活動報告は、これまでの議論が凝縮されていると思います。活動報告を、特別出張所の職員も活用してほしいと思いますし、地域包括支援センターの職員にも役立つと思います。地域包括支援センターでは、見守りコーディネーターの人数が増えていますが、区民協働の情報を知っている方はごく一部です。見守りコーディネーターの方にも活用してもらえれば、さらに連携・協働が広がると思います。 過去にジャンプアップ助成で実施され、区の事業となった見守りキーホルダーのような取組みが増えるといいと思います。</p>
副会長	<p>平成 29・30 年度は、2 か年にわたり二つの調査・研究テーマに取り組んできました。地域力応援基金助成事業については、これまでの 10 年間の経過を踏まえ、今後について議論、提案を行い、これに沿って見直し案が出ました。 おやじの会については、これまで明らかでなかった実態がよくわかりました。活動の広がり期待できるのではと思っています。 活動報告については、より多くの方が手に取り、参考としていただけるような見やすさの工夫や文言の見直しが必要だと思っています。</p>
櫻井委員	<p>これまでの自身の仕事から、町工場で働く方を多く知っていますが、地域での行事に参加したいと思っても、仕事優先という意識がまだ強いようです。この活動報告が、町工場働く方々にも届き、地域での取組みを知るきっかけになり、地域活動への参加につながるとよいと思います。</p>
部長	<p>多くの地域課題の解決に向け、地域での連携・協働が進んでいくことを望んでいます。4 月から地域力応援基金助成事業も大きく変わりますので、多くの団体に活用していただきたいと思います。</p>
会長	<p>本会議の委員の任期は 2 年で、平成 29・30 年度は今回が最終回となります。各委員から一言ずつお願いします。</p> <p>《各委員あいさつ》</p> <p>《閉会》</p>